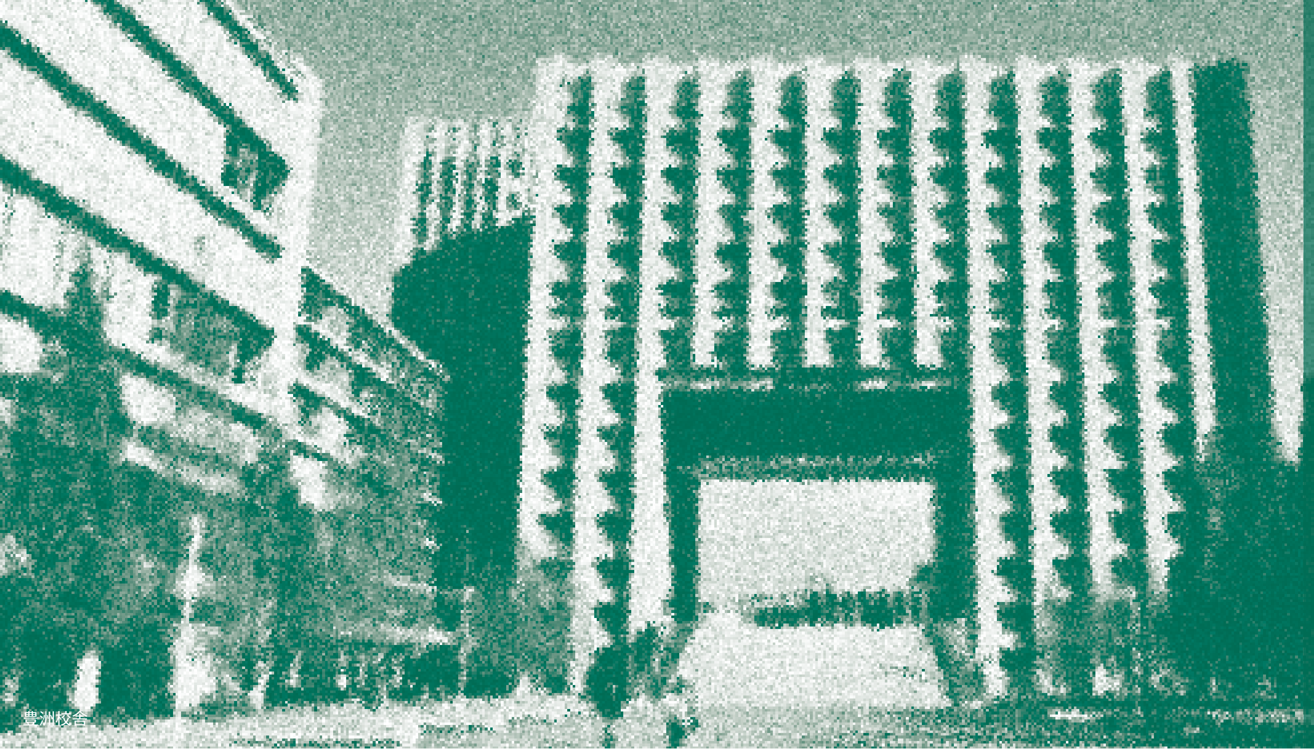

豊洲校舎

建築学科卒業生たより

芝浦工業大学 建築会

vol. 37
2021年11月

芝浦工業大学建築会
135-8548
東京都江東区豊洲3-7-5
TEL. 03-5859-8700
FAX. 03-5859-8401
http://sit-arch.com

建築会臨時総会の開催予定と、（仮称）芝浦建築会の設立総会の案内

建築会 会長
枝広英俊（一九七一年卒）

まずは、長年建築会の活動にご参加・ご協力を頂いた卒業生各位の皆様に、厚くお礼と感謝を申し上げます。既にご存じだとは思いますが、二〇二〇年三月をもって「工学部建築学科」としての卒業生は終焉し、二〇二一年三月からは新たな「建築学部建築学科」としての卒業生を輩出しています。本来であれば、昨年中（二〇二〇年十一月に計画していました）に建築会解散のための総会を開催し、引き続き活動を継続するための『（仮称）芝浦建築会』の設立総会を開催するよう準備を進めておりましたが、長引く新型コロナ禍の影響により、一堂に会すること及び密になることを避け、建築会会報第三十六号による書面審議（解散と設立のための準備と計画案）とさせて頂きました。その結果は「芝浦工業大学建築会」のホームページにも掲載させて頂きましたが、有効投票者の全員（賛成一七七票で、白票の二票を除く）から『（仮称）芝浦建築会』の設立計画にご賛同を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、昨年度の会報「第三十六号」を建築会発行の最終号として考えておりましたが（発送部数：四、四三四通）、多くの建築学科卒業生が楽しみにされていること、さらには資金不足の中で、会費の納入と寄付のお願いをさせて頂いたところ、例年より若干多くの方々から納入して頂き（会費納入者数：二八一名、寄付金総額：四十六万九千円）、本紙面を借用し役員・常任幹事一同深く感謝申し上げます。

従って、本年も予算編成が何とか可能になったことから、本会報「第三十七号」を発刊・送付できることになりました。本号も、これまで通りご拝読を賜れればと祈念しています。

本会報では、主に以下の内容について取り上げております。

◎本年十二月十一日（土）に開催を予定しております『第十四回　建築会臨時総会（主に解散が議題）』と『（仮称）芝浦建築会の設立総会』をお知らせしました。
◎個人的には第四次改変と考えていますが、多くの先生方の入れ替わりがあったため、ご退任（四名）とご就任（六名）の挨拶文を掲載させて頂きました。
◎これまで副会長の一人としてご協力頂き、次期芝浦建築会会長候補でもある「切刀強」氏（一九七六年卒）からご寄稿を頂きました。
◎新校舎建設「豊洲キャンパス第二校舎」の概要と現況について、建設事務局からご寄稿頂きましたので、最近の写真と共に掲載させて頂きました。
◎例年の学内の近況・動向報告（デザインチャンピオンシップ二〇二〇、卒業生による業界研究セミナー、建築学科関係者の活躍）などを掲載しました。
◎その他、建築会費納入者名簿、会計報告、会費納入のお願いなどです。

紙面の都合もありまして、記事の内容には濃淡がありますことをお許し願いたいと思いますが、それぞれの記事をご精読して頂き、不明な点等がありましたら改めてお問い合わせ願えれば幸いです。

なお、依然として新型コロナ禍の感染拡大が収束しそうにないことから、第十四回臨時総会は原則「書面審議」として解散の賛否等を諮らせて頂きます。ただし、会場やコロナ禍の状況にもよりますが、当日参加できますようでしたら直接会場にご参加頂ければと思っております し、可能であればオンラインによるWEB会議も考えて

編集後記

先の見えぬコロナ禍の中、本号に寄稿して下さった皆様に心より御礼を申し上げます。今年三月に建築学部建築学科からの第一期卒業生も輩出され、新しい歴史の始まりを感じています。冒頭にありますように、建築会は芝浦建築会となり新体制で継続していくことになりますが、移行に関する全ての手続きが済んではおりませんので、引き続き三十七号として刊行させて頂くことになりました。誌面前半は、お世話になった先生との別れと新しい先生との出会いに満ちており、ちょっとした特別号のようで、建築学科の節目を感じさせてくれます。後半では臨時総会のことについてお知らせをしておりますので、ぜひ内容をご一読ください。人と別れるにも出会うにも、まだまだ困難な時期は続きそうですが、同じ母校でご縁のあった皆さまとリアルに言葉を交わせる日が来るのを楽しみにしております。

道田 淳（一九九三卒）

会費納入のお願い

前年度の決算は、別掲の会計報告の通りとなっております。年会費は、建築会活動にとって最も大きな収入源であり、ここ数年間は二百二十から二百五十人程度の会員諸氏から会費を納入して頂いております。納入して頂いた会員の皆様には厚く御礼申し上げます。引き続き、本会報の印刷・郵送等の費用（昨年は約四五〇〇人に発送）、学科との共同事業などに有効に支出して参りますので、**年会費納入につきましては、一層のご理解とご協力をお願い致します。**

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千円をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

ただし、次期繰越金がかなり漸減し、会報の発行などの活動に不可欠な資金が不足していますので、**寄付（一口、千円以上）も含めてできるだけ多くの方々からのご協力をお願いできれば幸いです。**

なお、建築会は次年度から建築学部建築学科卒業生の輩出に伴い、（仮称）芝浦建築会として活動を継続する予定ですが、**残余資金につきましては、新たな会で引き継ぐことになることを申し添えます。**

2021年度　会計報告　（2021.7.31現在）

収入	繰越金　普通貯金（会費受入口座）	900,376
	現金	73,586
	（小計）	973,962
	年会費振込（会員）2,000円×281名	562,000
	年会費振込（新会員）3,000円×0名	0
	寄付　152名	469,000
	60周年記念事業貸出金回収	129,500
	（小計）	1,160,500
計		**¥2,134,462**
支出	会報第36号印刷費（5,050部）、封筒（4,490枚）、払込取扱票（4,450枚）	338,068
	宛名シール（4,434枚）	55,000
	会報等封入代（4,434部）	34,100
	総会返信ハガキ 4,437枚× 3.3円	16,104
	発送料：4,434通×83円	368,022
	会報デザイン校正料	110,000
	ホームページ維持費	10,186
	事務費　振込手数料	1,100
	デザインチャンピオンシップ支援	46,420
	レターパック：370円× 35ケ	12,950
計		**¥991,950**
次期繰越	普通貯金（会費受入口座）	1,128,296
	現金	14,216
計		**¥1,142,512**
支出＋次期繰越金		**¥2,134,462**

第14回建築会　臨時総会について【書面審議】

2021年12月11日（土）に開催する予定で計画・準備してきましたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、基本的には今回も主要事項に限定した書面による審議とさせて頂くことになりました。同封の返信用葉書（お手数ですが、切手は返信者にて貼付して下さい）に「賛成」、「反対」または「保留」のご回答を**2021年12月6日まで（必着）**にお願い申し上げます。

おります。

また、『（仮称）芝浦建築会の設立総会』は、他の学科・コースも関係することから「会場での直接参加による総会とオンラインによるWEB会議等も併用しながら開催する計画」です。新型コロナの感染状況によっては、直前に変更することも有り得ますので、その場合はホームページ『芝浦工業大学建築会』をご覧頂ければ幸甚です。

ご存じのように、芝浦工業大学は一九二七年に「東京高等工商学校」として創立され、創立当時から建築工学科（後の工学部建築学科）が設置され、その後変化・進展を遂げながら、一九五四年には芝浦工業大学工学部建築学科として文科省から認可され、今日まで建築学科卒業生を輩出して来ました（詳しくは、芝浦工業大学工学部建築学科六十周年記念誌をご参照下さい）。二〇一七年には工学部建築学科から建築学部建築学科に改変・統合「一学科三コース（SA・UA・APコース）」されても、芝浦工業大学建築学科としての学生の教育・研究や課外・社会活動、あるいは卒業生の一員であることには変わりなく、間もなく迎える創立百年あるいは建築学科設立七十周年に向けて、さらにその後も交流・絆が深められていくことを心から切望しています。

結びに、現在の建築会役員・常任幹事の皆様には、私が建築会会長の任をお引き受けしておよそ七年間にわたって、献身的にご尽力・ご協力を頂きました。本紙面を借用し、深く御礼申し上げます。また、『（仮称）芝浦建築会』が設立された後には、新たな会長の元で若返りを図りながら、ホームページをはじめFacebookやE-mailの活用が進み、継続して有意義な活動が行われると信じています。今後とも会員の皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

【芝浦工業大学　名誉教授】

建築会との関わりと（仮称）芝浦建築会の設立

功刀 強（一九七六年卒）

工学部建築学科は二〇二〇年三月に最後の卒業生を送り出し、工学部建築学科の名称は無くなり、建築学部建築学科となりました。この学部学科編成の動きに合わせて、新たな卒業生の会の設立を目指し、一昨年より工学部建築学科と建築工学科の両卒業生の会は合同幹事会等を開催し、両卒業生の会の解散と引き継ぐ新たな卒業生の会を設立する必要性を議論し、その会の名称や会則を検討してまいりました。昨年末までに新たな会を設立するロードマップも作成し、これに沿って準備を進めてまいりましたが、コロナの流行が収まらず緊急事態宣言もあり、設立するまでには至りませんでした。

工学部建築学科は二〇一四年に、学科設立から六〇周年を迎え記念行事が開催されました。その折に購入した六〇周年記念誌には芝浦工業大学設立の歴史が綴られ、本大学の前身は一九二七年に創立した商業学科、土木工学科、建築工学科のある東京高等工商学校でした。建築学科の創立時からの歴史と引き継がれてきた伝統に誇りを感じたのは私だけではなかったかと思います。また同学校創立二年後に武蔵高等工科学校（後の武蔵工業大学↓現東京都市大学）が分離し設立されたことを、元事務所の同僚で武蔵工業大学出身者がいたことから興味深く読ませて頂きました。またこの六〇周年記念行事では多くの先輩や後輩と久しぶりに対面し、懐かしさと連帯感を実感することができ、充実した時間を過ごしたことが思い出されます。

この建築学科の卒業生の会である建築会は、各年代の卒業生の近況報告や学生や先生方の活躍などを掲載する会報を年一回発行すると共に、全学年参加のデザインチャンピオンシップの応援としての賞や、卒業時には各研究室を代表する卒業生に記念品を提供してきました。また三年に一回の建築会総会では在学生にも呼びかけ、事務的な総会に引き続き、卒業生の講演やパネルデスカッション、その後の懇親会に在学生にも参加してもらうなど、在学生と卒業生との交流を図る活動をしてまいりました。

この建築会とは一九八八年に山梨の県立文学館建設時に設計者として常駐監理していたとき卒業生の近況報告の寄稿依頼が小柳津先生からあり、会報に拙い文書を載せて頂いたのが最初の関わりでした。その後みねぎし先生の追悼文を二〇〇七年に、二〇一二年には小柳津先生の追悼文を書かせて頂きました。

二〇一五年の建築会総会のおりには、在学生や先輩諸氏の前で、建築の設計者として関わってきた作品をスライドにて説明するパネラーの一人として参加させて頂きました。この年は私が三十七年務めた設計事務所を退職し、新たな設計事務所を設立した節目の年でもありました。その後建築会の常任幹事会にも出席させて頂き、今は副会長という過分な職で在籍させて頂いております。

工学部建築学科が無くなり、この卒業生の会である建築会も解散しますが、コロナの流行により体制づくりが遅れましたが年内には建築学部建築学科の卒業生の会を新たに設立し、今までの建築会同様卒業生の近況報告や学部学科内の活躍情報を発信し、在学生や卒業生の交流や関わりが持てる活動をして行くことで今準備を進めております。

卒業したらもう大学とはお別れというのではなく、卒業生の会の活動を通じて、母校との関わりに参加することは、同じ大学同じ学科に所属していたという帰属意識を育み、絆を深め、母校への愛着と誇りを持てるキッカケになり、多くの先輩・後輩との交流は必ずや自分への財産にもなります。

本会員の皆様には建築会の活動を継承する建築学部建築学科の卒業生の会（仮称）芝浦建築会を立ち上げることの

意義に共感して頂き、これからの活動に対してもご指導と共にご支援も宜しくお願い申し上げます。

【建築会副会長　設計事務所主宰】

退任のご挨拶

堀越英嗣

芝浦工業大学には二〇〇四年九月に着任し二〇二一年三月末に退職いたしました。旧芝浦校舎で研究室が始まりましたが、中廊下に面した小さな研究室に教員と学生が密集したとても濃密な関係が印象的でした。当時の校舎の使い込まれた質感は歴史の継承を感じ、ヨーロッパの都市の中にある大学の雰囲気でした。また教室会議、教授会ともに時間を切らずに活発に議論をする先生方のリベラルな雰囲気に圧倒されたことを思い出します。それから程なく新しい豊洲校舎に移り、東大宮と豊洲の日々が続きました、その間の研究教育は優秀な学生、院生たちと一緒に毎年、京都奈良の歴史的建築、現代建築の体験と設計哲学を追求する日々で、あっという間の約十七年間でした。その間、教育研究以外でも大学の施設設計に関わることが多く、現在の芝浦校舎、学生たちと共同した東大宮新2号館、国際学生寮、豊洲ではアーキテクチャープラザ、現在工事中の新研究棟の設計などゼネコン、設計事務所とのボランティア共同設計者として貢献させていただきました。建築学部開設準備室長として、取り組んだ建築学部は、委員の先生方の献身的努力で約二年の準備期間を経て二〇一七年に建築学部を開設することができ、無事完成年度を迎えました。関係された方々へ心から感謝いたします。また大学院も建築学専攻として始まりました。

現在建築学部建築学科の偏差値は、ある調査機関では六〇となり、名実ともに「芝浦の建築」となっています。建築、建工、デザ工という違いを超えて再編成された建築学部ですが、今年初めての卒業生を迎え、三〇を超える研究室の卒業論文、設計は多様性に富んだ成果を生み出しております。特に卒業設計では最終審査で評価が分かれる多様な視点のテーマがあり、教員の評価も分散しました。大学での評価が別れた作品が学部での評価で卒業設計日本一になるなど、これからの時代の多様な変化の予兆であり、その反映として、新しい建築学部の可能性が見いだせていると考えています。芝浦建築OBの皆様にはチャレンジする新しい後輩たちを暖かく見守っていただき、ますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

退職のご挨拶

藤澤 彰

退職にあたって近況と思い出すことを記します。

この一文は京都洛北、大文字山を望む小さな書斎で書いています。二〇〇〇年の春ここから芝浦工大へ出発し、二一年間の勤めを終え、七月の末に戻ってきました。戻ってきた時はやかましいほどの蝉しぐれが迎えてくれましたが、八月なかばを過ぎてからだんだんと静かになり、九月に入ると弱弱しく気づかぬほどになりました。季節が過ぎてゆくのを実感できるのは気持ちの良いものです。

芝浦での思い出は学生諸君、OB達とよく遊んで飲んだこと、そして先生方ともよく飲んだことに尽きます。

研究室は岐阜や佐渡島で自炊の長期間の合宿、京都・奈良の文化財見学合宿を実施していました。もちろん建築の勉強もしましたが、相当なエネルギーと時間を食生活と飲み会に費やしていました。日本の集まりには大事なことを、酒を飲みながら話し合って決める集団と、酒を飲まないで決める集団があるそうです。わたくしの嗜好の影響が大きいのですが、当研究室は明らかに前者でした。学生諸君にはその場がいろいろ勉強になったと思っています。学問研究の面でも生き方の面でも一番の勉強の場だったと思っています。そう信じています。ただ、下戸の学生さんにはつらい時間だったかもしれません。

研究室は風通しの良さを心掛けていました。幸い他研究室在籍の多くの学生が出入りしてくれました。つわものは朝から大根を持ち込み鍋でコトコトと半日かけて煮込んで、夕方に研究室で宴会を主催して帰ってゆく者もいました。

また、長い間、合宿をやっていると教員の目を盗んで、夜、宿舎を抜け出し海岸や草むらで語らい親交を深め、数年後に結婚にまでたどり着く者もいました。聞くかぎりでは今のところみんな仲良く暮らしているようです。気のせいか少子化の世の中で多産の傾向もあります。この辺のことは何も教えていないのに、学生は興味のあることは自分で進んで学んでいくようです。実は学問も同じです。

長い流行り病で不自由な生活を強いられていることと思います。皆さんくれぐれも無理をせずにお過ごしください。長い間お世話になり、ありがとうございました。

芝浦工大の八年間を振り返って

土方勝一郎

二〇二一年三月末をもち芝浦工業大学を定年退職いたしました。芝浦工大には二〇一三年四月に着任し八年間勤務いたしましたが、その間、二〇一四年から四年間は学年担任を、二〇一八年から二年間はコース代表を務めさせて戴きました。また、二〇一四年の工学部建築学科の六〇周年記念事業や、建築学部の設立に向けた準備委員会への参画等、密度の濃い経験をさせて戴きました。学年担任では、予想以上に途中で挫折したり進路変更する学生が多いことに驚かされました。進級や卒業をサポートできた学生も少なからずおりましたが、力不足だった面も否定できません。八年間の教員生活はあっと言う間でしたが、構造力学だけでも総計千人以上の学生を教え、卒論生も六十人を超えているので、それなりのお役目は果たせたかと考えます。卒業生の社会での活躍を耳にするのは教師の醍醐味であると実感しました。

以下では、建築学部について少しだけ私見を述べさせて戴きます。工学部の建築学科と建築工学科は、元々理念等の相違も存在し必ずしも息が合わない面もあったようですが、話し合ってみると各分野とも思ったより考え方が近い点も多く、構造系だけ見ても統合はスムースに進みました。ただし、デザイン工学部の陣容を加えて建築学部を構成したこと等に起因し、意匠系・計画系の教員の比率が高くなり、他大と比べややいびつな分野構成となっているように感じます。建築学部では必修科目数をかなり絞ったこと、また研究室配属では各研究室の受け入れ人数をかなり弾力化したこと等から、特に計画系の卒業生が多くなっているように感じています。言うまでもなく、芝浦工大の学生はまじめで実学に強く、社会的な評価は非常に高いです。この意味からもエンジニアリング系をより強化することが望まれると考える次第です。また、APコースは独自色がありますが、SAコースとUAコースには、実質的な相違はありません。将来的には両コースで、意匠・計画系とエンジニアリング系の教科の比率を変えるなどして、コースの特色をより鮮明にする方が良いかもしれません。本年十二月には、「建築会」が建築学部に対応した「芝浦建築会」に移行すると伺っており感無量です。最後に芝浦工大と卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。

【銭高組顧問、日本免震構造協会評価委員】

退職にあたって

田中厚子

二〇一七年の秋に特任教授として着任し、三年半という短い期間でしたが、学部長をはじめ先生方、事務の皆さまには大変お世話になりました。この誌面をお借りして心よりお礼申し上げます。最後の一年はコロナ禍によるオンライン授業になりましたが、研究室のゼミなど画面を通して接する学生たちとの時間は、対面とはまた違う密度の濃さがあって、彼らの熱意や意欲に支えられました。またこの三年半は建築学部への移行期でもありました。この時代の転換期を芝浦工業大学の皆様と共有できたこと、そしてこれからの建築や都市を考える機会を得られたことに深く感謝しております。

一年生の授業や設計課題に始まり、二年、三年の課題、そして卒業設計と進む学生たちの成長を見られることは、教員の醍醐味だと思います。特に一年間かけて取り組む卒業設計や修士研究の指導は面白く、学生たちの豊かな発想や意外な展開に学ぶことが多かったです。現在の都市や社会の諸問題に対して何らかの解決を見出したいという彼らのテーマの背後に、経済優先による画一的な現状への息苦しさが垣間見え、様々なほころびについて考えさせられました。

私は芸術系の大学で建築設計を学び、二十代後半から九年ほどアメリカとカナダで暮らし、子育てをしながら近代建築史の勉強を始めました。そのようなまわり道の経験は多様な価値観を理解する上で役立つように思います。若い世代には、効率の良さを求めるのではなく、心豊かな生活の質を求めて欲しいと願っています。また歴史を学ぶことの大切さ、その中に問題解決の鍵があることも伝えたいと思いました。

現在私は、女性と住宅、ジャポニスム、日米の住宅などについて研究を続けています。最後になりますが、建築学部、新校舎と発展する芝浦工業大学と建築会の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。三年半の凝縮された時間をありがとうございました。

着任のご挨拶

浅田勇人

二〇二一年四月に准教授として着任しました。私は二〇〇六年本学工学部建築学科卒業です。本学着任前は、神戸大に九年半勤めていました。学生の頃にお世話になった芝浦校舎とは見違えるほどきれいで立派な校舎となり、キャンパス内では多くの留学生をみかけ，芝浦工業大学も私がいなかった十五年間で大きく変化したと感じています。またこの間，建築学科は建築学部として新たなスタートを切り、学生の頃にお世話になった多くの先生方がご退職され、寂しくも新たなフェーズに入ったものと感じています。このような中で、一教員として、次代を担う人材育成にあたる機会を与えていただいたことは、重責であるとともに大きなやりがいです。また、一研究者としては新たな環境に身を置くことになり、現状のリソースを最大限に活用して、いかに研究成果を上げていくか、悩ましくもありますが、研究者としての実力が今一度試されているものと思っています。

私は建築構造とくに鋼構造を専門としており、主に耐震設計法の高度化ならびに鉄骨製作の合理化を実現するための研究を行っています。また最近では低炭素社会に向けてリュース建築や仮設建築物に関する研究にも力を入れつつあります。これらの分野での研究・教育活動を通じて一人でも多くの優秀な人材を世に送り出せるように今後も精進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【准教授／鋼構造研究室】

着任にあたって

猪熊 純

二〇二一年四月より、准教授として着任いたしました猪熊です。まだ数ヶ月の在籍ですが、大学全体が戦略的に進むべき方向性を定め、積極的に運営してゆく様を肌で感じ、心地よい緊張感を感じながら日々過ごしています。

昨年からのコロナウィルスの感染拡大は、直接的な対策はもとより、読めない未来を生き抜く力の重要性を感じずにはいられません。グローバルな競争にさらされながら、一方で縮小する地域への眼差しもますます重要になり、学生たちが学び、あるいは感じ取らねばならない社会の状況は、私が学生だった時代と比べても圧倒的に複雑だと思います。一方でこれは、以前にはなかった専門性の活かし方が生まれるチャンスでもあります。私は十年以上前からシェアの場を作ることをコンセプトに掲げてきましたが、当時あまり重要視されていなかったコミュニティやつながりのデザインは、今では大きな社会的テーマになりました。学生たちにも、今後の社会に自分の専門をどう活かすかを、大学で見つけて欲しいと思っています。そして私自身もその手本になれるよう、経験に捉われず、共に考えることを大切にしたいと考えています。

【准教授／建築設計研究室】

今後に向けて

岡崎瑠美

二〇二一年度より建築学科に着任し、主に西洋建築史科目を担当させていただいております。建築分野に関わる総勢三〇名を越える教員の方々と共に、高い専門性を持つ素晴らしい環境で教育や研究に携われることに感謝しております。

大学では三宅理一研究室に所属し、建築とアフリカの二つのキーワードを軸に国内外の様々な場所を訪れ、多様な価値観に触れる機会がありました。その頃研究室にいた修士や博士の先輩は先生の前任校であった芝浦工大出身の方々が多く、私は何もわからない学部一年生の頃から調査に同行させてもらい多くのことを学ばせていただきました。これまでは先生や先輩方に未知の世界へ導いていただきましたが、今後はそのような機会を私が学生に提供できればと思います。

感染症が広がる中、遠方へ渡航することがなかなか難しくなりましたが、今年度からは新たに国内やVR空間に関する研究を始める機会に恵まれました。学生の柔軟な発想に触れながら新しい研究テーマにもチャレンジしていきたい考えです。

【准教授／建築史研究室】

着任にあたり

小柏典華

建築史・建築保存研究室で、日本建築史を担当させて頂きます、小柏典華です。私は、日本女子大学住居学科・東京藝術大学大学院文化財保存学専攻にて勉強し、本年度より伝統ある芝浦工業大学建築学部建築学科の助教として着任いたしました。

専門は近世の寺院建築史・庭園史で、絵図や古文書の史料調査・実測を伴う現地調査から歴史的建造物の来歴・価値を解明しています。また、文化財保存およびその活用に関する活動にも積極的に取り組んでいます。

講義は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド講義としています。本来ならば、実際の建築を共に

見にいくことで学生の理解を深めたい所ですが、コロナ禍のため難しい状況です。そのため、近隣の博物館にご協力いただき、日本の伝統建築に関する「技術を体感する」機会を作ることに取り組み始めました。
　現在、芝浦工業大学はグローバル化に力を入れておりますが、国際交流の場においても共益的な関係であるためには、母国の文化的な理解が必須です。これから建築を学ぶ学生たちにとって、歴史を「学ぶ」のではなく、伝統を知識として「生かす」ための建築教育を目指してまいります。

【助教／建築史・建築保存研究室】

さらなる国際化へむけて

小塙芳秀

今年度より准教授に着任し、建築設計を担当しております。二〇二七年に創立一〇〇周年を迎える歴史ある芝浦工業大学の教員として迎えていただいたこと、大変光栄であり、身の引き締まる思いです。
　一九九八年にスペイン・バルセロナに渡り、大学院で建築ランドスケープを学び、磯崎新アトリエ・スペイン、RCRアーキテクツで勤務した後、今年三月までスペインを拠点に設計活動を行ってきました。建物を設計する上で、歴史や都市はもとより、ランドスケープを含む周辺環境まで考慮することを学び実践を心がけてきました。そのような経験から、学生にも建築設計の範囲を幅広く意識してほしいとの願いより、自身の研究室を「建築・ランドスケープ研究室」としました。
　本学はスーパーグローバル大学に採択されていますように、非常に国際プログラムも充実しています。多様な建築の在り方を積極的に世界より学んでほしいという思いがあり、二〇一八年度より、バルセロナの建築スクール（BAC）で開催されています、二年生を対象とした海外建築研修プログラムの立ち上げに携わってまいりました。今後も海外の建築事情に接する機会をつくり、より多くの学生が国際社会で活躍できるよう努めていきたいと思います。

【准教授／建築・ランドスケープ研究室】

着任のご挨拶

佐藤香寿実

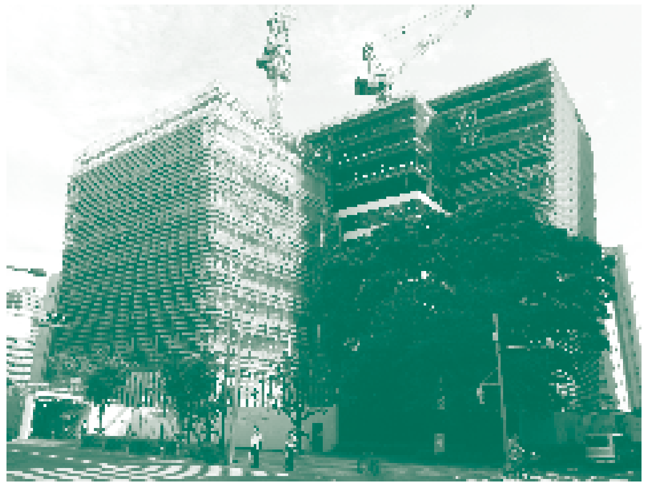
二〇二一年度より特任講師として着任しました。人文社会系科目を担当しています。
　私は人文地理学を専門とし、フランスの政教関係をテーマに、ストラスブールでフィールドワークを実施してきました。フランスでは憲法原則であるライシテ（非宗教性の原則）を強化する動きが活発化していますが、その動きは時に排他的なナショナリズムとも連動し、宗教的マイノリティであるムスリムを攻撃する口実として政治的に利用されている側面も否めません。「不可分で非宗教的な」共和国であるとされるフランスですが、地域の現場によって政教関係の在り方は微妙に異なります。例えば、ストラスブールでは、アルザス＝モーゼル地方法の特別な規定にも助けられ、市がモスク建設への資金援助や、ムスリム専用の公共墓地の提供をしています。
　こうした個別具体の「場所」の重要性は、オンライン化が進展するなかで、いっそう強く実感されるようになっています。建築学とはそうした「場所」を構想し、創りあげ、分析するための学問だと理解しています。建築に関し幅広い知を蓄積・継承してきた本学部で、多様な観点から「場所」の価値を見つめ直していきたいと思います。

【特任講師／グローバル地域社会研究室】

芝浦工業大学豊洲第二校舎新築工事　概要と現況

学校法人芝浦工業大学
豊洲キャンパス第二校舎建設事務局

第二校舎建設は、二〇一九年十一月より山留SMW工事に着手しました。本建物では、地下一階とその下部に各種用途の水槽があるため、地表から深さ一〇メートル近くまで掘削する必要があり、山留壁を地表から深さ一五メートル程の不透水層（砂質シルト層）まで構築しました。
　杭工事は、二〇二〇年一月より、長さ一〇メートルほどの鋼管杭（JFEスチール製）を現場で溶接しながら、地表から深さ四〇メートルの洪積層（埋没段丘礫層）まで回転圧入して施工しました。
　同年四月より八月頃まで一次～三次掘削で約二五〇〇〇立方メートルの建設発生土を搬出し、六月から十月まで基礎躯体工事を在来工法で施工しました（鉄筋七〇〇トン、コンクリート六〇〇〇立方メートル）。
　二〇二〇年十一月からは、地下一階の〇節鉄骨建て方に着手し、鉄骨ファブは、国内七工場で製作しました（鉄骨数量約六五〇〇トン）。地上一階から十四階までは、一節～五節に分けて、二〇二一年一月から七月に取付を行いました。
　同年七月十五日には、斎主に亀戸天神社をお招きして、関係者で上棟式が無事執り行われました（上棟梁はR階に取付）。
　八月下旬現在、専門工事業者が四〇〇名ほどで工事を進めており、内外装工事を進めながら、既存交流棟との渡り廊下接続工事にも着手しました。今後、九月より屋上防水・設備機器設置、昇降機工事に着手します。十月に外装工事が完了し、十一月に受電の予定です。また、構内の車両動線を確保しながら、第二校舎周辺の外構工事も十一月より始まります。二〇二二年一月からは、上階の内装工事を進めながら、下階より試運転調整を行い、総合連動試験を経て、三月に各種完成検査を受検予定、二〇二二年後期に開校いたします。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。
　竣工後は、創立一〇〇周年に向けて「アジア工科系大学トップ一〇」を目指し、英語で学部教育を行う先進国際課程の研究室設置、研究室の区切りをなくし意見交換が自由に行えるオープンラボの開設などにより、さらなるグローバル教育・大学院教育充実・研究力強化する計画です。



豊洲第二校舎　南西側

豊洲第二校舎　東側

デザインチャンピオンシップ二〇二〇

郷田修身（教授／一九九一年学部卒、一九九三年院修了）

九回目を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇二〇年十月二十四日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇〇二年の工学部時代に始まった建築学科主催の建築設計コンペです。今年度は、東京藝術大学准教授で、建築家としてもご活躍中の藤村龍至先生をお招きして、八月八日に講演と出題をして頂いたのち、十月に公開審査を行いました。例年は作品展示を行い、公開審査も対面で実施していましたが、コロナ禍のためZoomでの実施となりました。それにも関わらず三十七組の応募があり、学生の意欲の高さを表しています。
　コンペのテーマは「House in 2020-2045（2020-2045年の住宅）」です。時代を二十五年ごとに区切り、一九四五～、一九七〇～、一九九五～を象徴する住宅作品を選び、その潮流を解釈した上で、これから二十五年の住宅を提示せよというものです。過去を振り返りながら未来を考えることについて、藤村先生から豊富な建築知識を織り交ぜながら丁寧にお話頂きました。建築会にはこのイベントにご後援を頂いています。毎年、優秀作品賞の副賞その他に使わせて頂いています。学生への支援を誠にありがとうございます。

審査結果は以下の通りです。
□最優秀賞　「家母長制の家」
　石田和花名（堀越研B4）／藤田北斗（郷田研B4）
□優秀賞　「食を営む場」
　安原樹（堀越研B4）
□優秀賞　「多面的住宅」

阿部寛子（岡野研M1）／上野美紀（山代研M1）

近藤眞央（山代研M1）

□佳作　「ミチが紡ぐ、マチの暮らし」

キム・ジュンヒョン（郷田研B4）

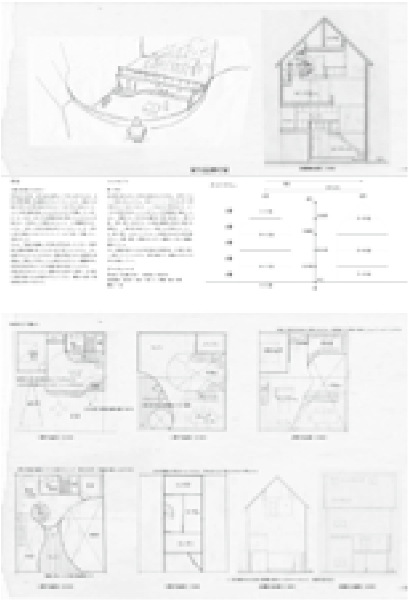
西山健太郎（岡崎研B4）

□佳作　「商い化する家」

海老原耀（原田研B4）／箭内一輝（原田研B4）

□佳作　「部屋部屋をめぐる」

関健太（関健太M1）



最優秀賞作品「家母長制の家」

ZOOM 越しの藤村龍至先生

参加者で記念撮影

卒業生による業界研究セミナー二〇二〇

原田真宏（教授／二〇二一年度就職担当）

建築学部建築学科主催の業界研究セミナーが二〇二〇年十二月十五日（火）に開催されました。卒業生を招いてのセミナーは、二〇〇四年から就職セミナーとして始まり、業界研究セミナーと名称を変えながら今回で十七回目となりました。covid-19の蔓延を受け、今回は初めてのZOOMでの開催となりましたが、例年通り、建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさと楽しさ、日々の生活、自身がどのように進路を選んだかなど、後輩にだからこそ伝えられる内容を具体的にお話し頂きました。

卒業して十五年ほどの先輩方のお話は、建築実務の貴重な経験談とともに、かつての在学中の生活など、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える上で大変参考になったようです。リモート開催ということも後押ししてか、学部生、大学院生と多数の参加がありました。講演してくださった皆様は毎年快く引き受けてくださり、おかげさまで開催できております。教員として非常にありがたいことと感じております。

講演者プロフィール

□施工分野　上田大裕（うえだ まさひろ）
二〇〇五年　枝広研究室
現職社名　大成建設株式会社
現職部署　東京国際空港第2ターミナル
　国際線施設建設工事作業所
業務の内容　建築施工管理

□意匠分野　原嶋宏樹（はらしま ひろき）
二〇〇六年　堀越研究室
現職社名　鹿島建設株式会社
現職部署　建築設計統括グループ
業務の内容　建築設計

□構造分野　足立幸多朗（あだち こうたろう）
二〇〇七年　岸田研究室
現職社名　株式会社安井建築設計事務所
現職部署　東京事務所　構造部
業務の内容　構造設計

□設備分野　永吉敬行（ながよしたかゆき）
二〇〇九年　西村研究室
現職社名　大成建設株式会社
現職部署　関西支店　設計室（設備）
業務の内容　設備設計

□官公庁　城向 咲（じょうこうさき）
二〇〇八年　南研究室
現職社名　横浜市
現職部署　建築局 住宅部 住宅政策課
業務の内容　住宅に関わる業務等

建築学科関係者の活躍について

志村秀明（教授／二〇二一年度／建築学部建築学科主任）

最近一年間の建築学科関係者の活躍、また建築学部建築学科第一期生であり、「芝浦建築会」の会員となる二〇二〇年度の卒業生の研究成果について紹介させて頂きます。

一．教員の活躍

□学会賞等の受賞

○原田真宏教授が「知立の寺子屋」で、「二〇二一年日本建設業連合会BCS賞」を受賞しました。

原田教授コメント　－　知立に拠点を置く企業が「ものづくり」と「グローバル」で地域貢献を目指した学習施設兼地域コミュニティ施設です。敷地は歴史的要衝にあり、公園とおおらかに繋がるホールと特徴的な木架構の屋根で印象的な風景をつくり出しました。

○小柏典華助教が、学術論文「近世滋賀院境内の復原的考察　運営組織と空間序列から」で「二〇二一年日本建築学会奨励賞」を受賞しました。

小柏助教コメント　－　本論文は、比叡山延暦寺の本坊として近世に創立された滋賀院門跡を対象に、歴史的史料の解読を通して建築空間を実証的に復原したものです。天台宗寺院である滋賀院は、近世において天台座主・輪王寺門跡の二主体が寺院を統括する、独特な体制で運営されました。運営組織による室の使用方法、仕様からみた空間序列を対照することで、近世における建築空間の構成を明らかにしました。また本論文で作成した復原図面、畳縁や畳表からみた建築空間の検討手法は、今後の関連研究への進展を高く評価して頂きました。サポート頂いた全ての皆様に感謝申しあげると共に、日本建築学会奨励賞を受賞できたことを大変光栄に存じます。学生たちへ、建築史研究の魅力を伝えていける研究を目指していきます。

二．学生の活躍

□学会関係（一）

【受賞者】淡中菜央（建築学科四年、濱崎研究室）

【受賞名】二〇二一年日本建築材料学会　優秀学生賞

【発表題目】コンクリートの表面形状計測による内部鉄筋の腐食状況の非接触的評価方法

□学会関係（二）

【受賞者】長塚友汰（建築学科四年、濱崎研究室）

【受賞名】二〇二一年日本建築仕上学会　卒業研究賞

【発表題目】建築外装仕上材の中性化抑制効果の評価方法および評価基準の提案

□学会関係（三）

【受賞者】岡本直己（修士二年、秋元研究室）

【受賞名】令和二年度空気調和・衛生工学会大会　優秀講演奨励賞

【発表題目】ZEBを目指した中規模事務所ビルの計画と検証（第十七報）変風量コアンダ空調システムにおける天井仕上げ仕様及び天井障害物が気流性状に与える影響の検証

□学会関係（四）

【受賞者】北野太郎（建築学科四年、秋元研究室）

【受賞名】空気調和・衛生工学会振興賞学生賞

□コンペ関係（一）

【受賞者】森永あみ（建築学科四年、原田研究室）

・せんだいデザインリーグ二〇二一卒業設計日本一決定戦　優勝

□コンペ関係（二）

【受賞者】加瀬航太郎（修士一年、原田研究室）

・はまっこ郊外暮らしコンペ　グランプリ

□コンペ関係（三）

【受賞者】海老原 耀（建築学科四年、原田研究室）

・FMアーキチャット卒業設計部門　最優秀賞

□コンペ関係（四）

【受賞者】伊藤ひなの（修士一年、原田研究室）

・キャリアインカレッジビジネスコンテスト　優勝

□コンペ関係（五）

【受賞者】林 侑也（修士二年、原田研究室）

・第一回スカイコート学生プランニングコンペ　優秀賞

□コンペ関係（六）

【受賞者】関 健太（修士一年、原田研究室）
・VENVSTAS ITALY DESIGN COMPETITION 2020　入選

□コンペ関係（七）
【受賞者】大久保尚人（修士一年、郷田研究室）
・ぐっどずっと。エネルギア住宅作品コンテスト二〇二〇
　最優秀賞
・東横堀川デザインコンペティション　佳作
・エイブルデザインコンペティション 2020　佳作

□コンペ関係（八）
【受賞者】吉岡哲宏（修士二年、堀越研究室）
・第二十一回 CS デザイン賞 学生部門　入選

□コンペ関係（九）
【受賞者】安原 樹（建築学科四年、堀越研究室）
・仙台デザインリーグエスキス塾　手島賞
・赤レンガ卒業設計展　八十選

□コンペ関係（十）
【受賞者】北田航也／木津郁海／平山 徹（修士一年、谷口研究室）
・木の家設計グランプリ二〇二〇　銅賞

□コンペ関係（十一）
【受賞者】横山達也（建築学科四年、谷口研究室）
・第八回都市・まちづくりコンクール　総合資格賞

□コンペ関係（十二）
【受賞者】関野洸汰／平山 徹／矢ヶ崎あかね（修士一年、谷口研究室）
・第二十七回　空間デザイン・コンペティション　三十三選

□コンペ関係（十三）
【受賞者】荒川直輝／上野美紀／近藤眞央（修士一年、山代研究室）
・木の家設計グランプリ二〇二〇　二十選

□コンペ関係（十四）
【受賞者】鶴井洋佑／豊田悠人／西村 琢真（ヘネガン研究室）
・第七回ポラス 学生・建築コンペティション　入賞

三．二〇二〇年度の卒業生

二〇二〇年度の卒業研究（論文・設計）優秀者および各賞の受賞者は以下の通りです。

□学業成績　最優秀賞・総代　今村真樹子
□学業成績　優秀賞・有元賞　西村琢真／松本直己
　沖本大樹
□学業成績　優秀賞（五十音順）
　石川利哉／大塚智貴／坂田海翔／澁谷夏珠
　髙尾大悟／田中有純／林 拓実／松下裕介
　矢萩杏依／横田亨仁
□卒業設計　最優秀賞・三浦賞　櫻木綾子
□卒業設計　優秀賞（五十音順）
　東 龍太郎／海老原 耀／加藤利基／谷井美優
　西村琢真／山際朝香／楊 頌南
□卒業設計　奨励賞（五十音順）
　上野山波粋／小野眞央／キム ジュンヒョン
　小池温花／鈴木啓大／本木祐宇／安原 樹
　小林美穂
□卒業論文賞（五十音順）
　赤木 信元／飯田雄大／石神美紅／植竹悠里
　小川禄太郎／小野木匡崇／北林和典
　近藤貴寛／坂田海翔／下田浩平／庄司栄介
　高橋 洸／田中敬吾／淡中菜央
　テウーティン ザーチョウ／野田美夏子
　長谷川聡一／堀江祐奈／松本直己／的野泰彦
　宮川 優／盛本美波／山﨑稜汰

二〇二一年度の建築学部建築学科は、APコース三〇名、SAコース一一六名、UAコース一一〇の計二五六名の新入生を迎え入れました。春期入学式は、コロナ禍が続いているものの、東京国際フォーラムAホールで、来場を新入生のみに制限して実施されました。

前期の授業は、対面とオンラインのハイブリッドで開講しています。学生には基本的に対面での受講が推奨されており、オンラインでの受講であっても、大学キャンパスへ登校することが望ましいとされています。教室のキャパシティは十分に確保しているのですが、「密」になることを恐れる学生は、登校しても教室へは入らず、ロビーやラウンジなどで受講しています。コロナ感染拡大第四波の影響もあってか、春には一杯だった教室が、初夏を迎えるころには閑散となり、授業風景が一変しています。実験科目は対面で実施されましたが、設計演習と製図では、一部の学生はオンラインでの受講となりました。課外活動も、第四波以来ほとんど制限されています。「友達ができない」「授業や大学生活の相談ができない」といったことから、ストレスを抱えている学生が増加しているようです。

厳しい状況が続きますが、教員一同、教育・研究に邁進する所存でございます。建築会の皆様には、今後ともご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

二〇二一年度 建築会費納入者

二〇二一年の建築会会費（二千円／年）納入者の卒業年と氏名を下記に紹介させて頂きます。納入して頂いた皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存でおりますが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。

（役員・常任幹事一同）

元教員　塘 直樹
元教員　相田武文
昭25　岩瀬定保
昭30　澁木昭一
昭33　加藤國男　藤内哲雄　阿部善司
昭34　岡本嘉行　横山達男　吉田寿郎
昭35　橋本吉雄　渡辺寛之
昭36　生沼善左　刈谷靖彦　清田清司　佐藤勝利
昭37　笠原彰夫　北山松幸　小林 功　村田 保　室 俊彦
昭38　池谷良昭　東郷 豊　冨永平三郎　樋口智美　三門一夫　宮澤正倫
昭39　楠井誉久　白子 隆
昭39　高畑文夫　滝沢厚征　辻村 進　西村捷之　村杉隆夫　安森久亮
昭40　山岸栄三　天野悠一　石崎幸亮　片山久美子　北川良和　島野 健　白谷武一　鈴木算之　谷端順一　永谷精孝　西山正勝　矢口弘康　吉田 勇
昭41　石鍋元章　大蔵 久　小澤良明　松本花子　山本文雄
昭42　阿部泰資　五十嵐 剛　池崎博二　河井 洋　佐藤久松
昭42　嶋影健一　長谷川 基　宮内古勝　山田一竹
昭43　秋山大植　井家常雄　大塚家光　小山 武　曽根 稔　豊田貴彦　山村亜男
昭44　加々美 明　勝部民男　狩野三雄　北川 享　齊藤 修　染谷 清　高山和則　平沢 勇　保科俊彦　前田高史　村上一憲　米澤 稔
昭45　樫原康文　川崎政善　北村武彦　小林昌彦　佐藤元一　鈴見健夫　戸辺和美　成毛弘治　萩原陽一　山本 勇
昭46　岩本俊郎　枝広英俊　大江秀次　大根弘行　角野和明　唐沢 勉　河合 誠　河野孝一　岸 清　木谷和俊　久米 勝
昭46　小堀雅彦　須田昌孝　辻村 建　中村周一郎　橋本貞章　広瀬文宣　福田俊次　藤井和俊　藤森正男　矢代 誠　和田伸一　渡部 精
昭47　浅沼幹雄　伊津道人　猪原幸生　春日貞秋　香取素史　佐藤文俊　住友正樹　瀬口啓一　玉井賢一　直海秀紀　長井義明　永海文治　西村 修　不破隆夫　増山 栄　松田悦朗　松塚 昇　宮川義英　宮嶋正晴　山根克史
昭48　石山則広　加藤泰久　亀甲将実　久須美敏行　指山泰和　鈴木秀幸　塚田栄一　戸山芳一　野崎喜一郎　平田 満　吉田優一
昭49　井上元成
昭49　牛山信康　枝広秀子　加治喜久夫　柏本 保　河村和明　川本勝一　酒井 強　山口登司　春日義則
昭50　橋本好司　山本 仁
昭51　浅見 勝　阿部澄夫　伊東昭博　小野 清　功刀 強　小林一生　齋藤喜義　菅原紀昭　徳永一雅　早川金光
昭52　今村敏克　金岡 敏　小宮 誠　須賀研太郎　竹原基好　寺門慶二　中村二郎　西村一孝　萩野正雄　林田和雄　牧内昭憲　三浦 保
昭53　伊藤 清　岩田和重　松寿 章　田浦英典　高橋延幸　月居利久　富安伸好　山田 巌　弓達和彦
昭54　池之上 誠　今村 司
昭54　笠井義文　賀村幸人　吉見光宣　杉山政市
昭55　釜井重一　美原陽太郎
昭56　石橋良成　竹内 孝　長橋憲一　鳴海雅人　松下英司　村田 優
昭57　大崎閲男　片山淳夫　神尾雅陽　宮下 俐
昭58　大竹昌彦　小島伸司　志村 太　千須和正夫　平澤龍一　森 大助
昭59　今井正門　内田美由喜　大木健逸　久本雅義　宮崎亮二
昭60　伊藤政人　平林重徳
昭61　片平義隆　小山 滋　菅澤 晋　鈴木 泉
昭62　田中和広　西浜清則
昭63　遠藤公志郎　鶴 浩一郎
平1　飯嶋直子　枝光 稔　奥岡三好　河井慶太　昆野雄吾　進藤浩幸　清田文弘

平1	高山直明
	竹中明彦
	藤田武志
	山下浩司
平2	砂野公一
	栗原幸樹
	郷田修身
平3	鈴木剛
	古川達也
	吉本竜也
平4	石久保猛
平5	倉持昌弘
平6	原修一
	松田祐基子
平7	鈴木宏治
平9	青木哲也
	安達晋悟
	笹本昌代
	戸田悟史
	丹羽修
	渡邉将宏
平10	秋山達哉
	関裕紀子
	庵麻由
	古市隆志
平12	中村真史
平14	大橋拓郎
	正林一紀
平16	森本和生
平18	守屋仁
平21	竹田恵利加
平22	加藤優一
	白岩伸介
	新堀達也
	安田和雄
平23	奈良悠紀
平24	小島多希
	木村康孝
	長谷部美紅
平25	近藤健太
平27	多久和大海
平28	福山ふみの
	松永彬利
平30	寺田有里
平31	吉岡駿佑
令2	家住憲司

※令2は新会員
入会金三千円

二〇二一年度 建築会寄付者

寄付金を頂戴した皆様を左記にご紹介させて頂きます。
厚くお礼申し上げます。

元教員	塘直樹
元教員	相田武文
昭30	澁木昭一
昭34	阿部善司
	横山達男
	吉田寿郎
昭36	刈谷靖彦
	清田清司
昭37	北山松幸
	小林功
	村田保
	室俊彦
昭38	冨永平三郎
	三門一夫
	宮澤正倫
昭39	楠井誉久
	高畑文夫
	滝沢厚征
	西村捷之
	山岸栄三
昭40	石崎幸亮
	島野健
	白谷武一
	鈴木算之
	永谷精孝
	吉田勇
昭41	石鍋元章
	大蔵久
	小澤良明
	山本文雄
昭42	阿部泰資
	嶋影健一
	長谷川基
	宮内古勝
昭42	山田一竹
昭43	秋山大植
	井家常雄
	曽根稔
昭44	勝部民男
	齊藤修
	染谷清
	高山和則
	平沢勇
	保科俊彦
	村上一憲
	米澤稔
昭45	樫原康文
	北村武彦
	小林昌彦
	佐藤元一
	鈴見健夫
	戸辺和美
	萩原陽一
	山本勇
昭46	岩本俊郎
	枝広英俊
	大江秀次
	大根弘行
	角野和明
	河野孝一
	岸清
	木谷和俊
	久米勝
	須田昌孝
	辻村建
	中村周一郎
	広瀬文宣
	福田俊次
昭46	藤森正男
	矢代誠
	和田伸一
昭47	伊津道人
	春日貞秋
	佐藤文俊
	住友正樹
	玉井賢一
	直海秀紀
	西村修
	不破隆夫
	増山栄
	宮川義英
	宮嶋正晴
昭48	加藤泰久
	指山泰和
	鈴木秀幸
	吉田優一
昭49	牛山信康
	柏本保
	河村和明
	酒井強
	山口登司
	春日義則
昭50	山本仁
昭51	阿部澄夫
	伊東昭博
	小野清
	小林一生
	齋藤喜義
昭52	今村敏克
	金岡敏
	竹原基好
	中村二郎
	西村一孝
	牧内昭憲
昭53	伊藤清
	岩田和重
	松寿章
	月居利久
	山田巌
昭54	池之上誠
	笠井義文
	賀村幸人
昭54	杉山政市
昭55	釜井重一
昭56	竹内孝
	長橋憲一
	松下英司
昭57	片山淳夫
	神尾雅陽
昭58	大竹昌彦
	小島伸司
	志村太
	千須和正夫
昭59	今井正門
	内田美由喜
	大木健逸
	久本雅義
	宮崎亮二
昭60	伊藤政人
	平林重徳
昭63	鶴浩一郎
平1	枝光稔
	進藤浩幸
	高山直明
	藤田武志
平2	栗原幸樹
平3	鈴木剛
	吉本竜也
平4	石久保猛
平5	倉持昌弘
平6	松田祐基子
平9	安達晋悟
	丹羽修
平11	古市隆志
平12	中村真史
平14	正林一紀
平22	白岩伸介
	安田和雄
平24	木村康孝
平28	松永彬利
平31	吉岡駿佑
令2	家住憲司

第十四回建築会臨時総会について【書面審議】

昨年（二〇二〇年）は、会則に定められている三年に一回の第十三回建築会定期総会を、新型コロナウイルスによる感染拡大で緊急事態宣言等が発出されたため、書面審議とさせて頂きましたが、ご協力に厚く御礼申し上げます。昨年、書面審議とさせて頂いた下記の第一号議案から第六号議案の結果につきましては、「芝浦工業大学建築会」のホームページでもお知らせしました通り、全ての議案について賛同・承認を得ました。誠に有難う御座いました。

【第一号議案】二〇一七年度～二〇二〇年度の活動報告と今後の活動方針について
【第二号議案】二〇一八年度～二〇二〇年度の決算報告と二〇二一年度予算について
【第三号議案】〝建築会〟の解散と〝(仮称) 芝浦建築会〟の設立計画について
【第四号議案】〝(仮称) 芝浦建築会〟の役員および常任幹事の改選について
【第五号議案】〝(仮称) 芝浦建築会〟発足に伴う会則変更について
【第六号議案】今後の〝(仮称) 芝浦建築会〟の進め方および懇親会の開催について

上記の第三号議案の承認を受けて、標題の**第十四回建築会臨時総会**につきましては、**二〇二一年十二月十一日（土）**に開催する予定で計画・準備しております。

本年も前半期六回に及ぶZoomによるオンライン常任幹事会を開催し、新型コロナウイルスの影響が収束しそうにない中で、〝密〟を避けるためにも一堂に会しての臨時総会を避け、**総会は原則として書面審議**で行い、合わせて**直接会場参加**あるいは**オンラインによるWEB会議**とすることに決定しました。ただし、残念ではありますが、懇親会は中止することに決定いたしました。なお、直接会場参加につきましては、感染防止対策を十分に行うことを前提に、**会場参加希望者は二回のワクチン接種を完了していることを条件**にご協力をお願いいします。何卒、宜しくご理解をお願い申し上げます。

昨年と同様に、書面審議では資料を配布して十分なご報告および質疑応答等はできませんが、何卒趣意をご理解の上、下記に列記した概要の内容をご確認いただきまして、同封の返信用葉書（お手数ですが、切手は返信者にて貼付して下さい）に**「賛成」**、**「反対」**または**「保留」**のご回答をお願い致します。ただし、**回答期限は二〇二一年十二月六日まで（必着）**とさせて頂きます。

なお、審議事項に関しましては、返信された葉書の有効総数と当日参加者数(オンライン参加も含む)を総数とし、会則第六条（六）により「議事は、出席者の過半数をもって決定する。」に従い、また「会則変更については第九条（一）により三分の二以上の同意」、さらに「解散および残余資金の扱いについては第九条(二)により四分の三以上の同意」をもって成立したものとさせて頂きます。

紙面上、要点のみに限定させて頂きましたが、主な報告・審議事項の概要は、以下の通りです。

【第一号議案】二〇二一年度前半期の活動報告と今後の活動方針について

これまで建築会と建友会の合同会議を三回重ね、建築学部建築学科の卒業生の輩出に合わせて（仮称）芝浦建築会として合流し、今後の活動を一体化することで議論を重ねた。また、主要メンバーを中心にしたコア会議を設置し、具体的な新たな役員の選出方法や、新会則案の策定、今後の主要な活動計画などについて九回にわたって検討した。一方、建築会常任幹事会では、二〇二一年に入って、同年九月まで（前半期）に六回のオンラインによる会議を行い、それぞれの議事録の要旨は芝浦工業大学建築会のホームページに掲載していますが、以下に示す内容（主要な事項のみキーワードを列記しました）について報告・審議したので、その概要を照会した。

□常任幹事会の開催日
二〇二一年三月三日(水)、同年五月十九日（水)、同年六月十三日(水)、同年七月二十日(火)、同年八月二十六日(木)、同年九月十四日(火)

□主な報告・審議事項
会費・入会金・寄付等の納入状況、六十周年記念誌の申込者数の報告、第十三回建築会総会の開票結果、会報三十六号の発行数と郵送部数、二〇二一年度（二〇二〇年八月～二〇二一年七月）の会計報告、建築学科学位授与式の報告および学内の近況報告（教員の異動や新型コロナ対応など）、建友会との合同会議及びコア会議の結果報告とその審議、建友会の解散の報告、新会則の条文の検討、第十四回建築会臨時総会および第一回芝浦建築会設立総会の開催（日時、場所、開催方法など）について、会報三十七号の発行準備とその内容および執筆者等について、芝浦建築会の役員の候補者の選出についてなどです。

□今後の活動方針

第三号議案による（仮称）芝浦建築会を設立し、新しい役員のもと、新会則に基づき継続して建築学部建築学科卒業生の会を運営する。

◎右記の活動報告と今後の活動方針について、ご承認をお願い致します。

【第二号議案】二〇二一年度の会計報告について

本年度（二〇二一年度は、二〇二〇年八月から二〇二一年七月までを会計年度）の会計報告につきましては、本会報三十七号の最終頁で報告させて頂きました。なお、会計監査につきましては滞りなく監査を終了しております。

◎右記の会計報告について、ご承認をお願い致します。

【第三号議案】〝建築会〟の解散と〝残余資金〟の扱いおよび〝（仮称）芝浦建築会〟の設立計画について

一九五四年に大学として認可された工学部建築学科は、二〇一七年に建築学部建築学科（旧来の建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科の建築・空間デザイン領域が統合）へと統合・再編（一学科三コース）されたことにより、二〇二一年四月からは建築学部建築学科卒業生として迎え入れることになりました。これを機に、これまでの建築会は解散し、現時点はまだ仮称ではありますが、「芝浦建築会」として改名し、今後も活動を継続していきたいと考えております。

従って、建築会は二〇二一年十二月十一日をもって解散します。ただし、同日、（仮称）芝浦建築会が設立されることにより、建築学部建築学科の同窓会としての新たな活動を今後も継続して行うことになります。

なお、残余資金については、繰越金として〝（仮称）芝浦建築会〟に移行します。

◎右記の解散および残余資金の扱いについて、ご承認をお願い致します。

【第四号議案】今後の〝（仮称）芝浦建築会〟の進め方について

建築会としましては、〝（仮称）芝浦建築会〟の次期会長候補として「功刀 強」氏（一九七六年卒）を推薦し、新たな体制と会則の元、これまでの建築会活動と新たな発想・提案による企画が継続して行われることになります。皆様のより一層のご協力とご理解およびご支援を宜しくお願い申し上げます。

◎右記の今後の進め方について、ご承認をお願い致します。

第14回建築会臨時総会と（仮称）芝浦建築会設立総会の案内

本誌の第 14 回 建築会臨時総会について、【書面審議】の欄でも記載しておりますが、2021 年 12 月 11 日（土）の 13 時から芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて、標記の臨時総会と（仮称）芝浦建築会設立総会を開催いたします。下記に式次第およびタイムスケジュール（案）等を列記し、ご案内をさせて頂きましたので、ご確認の上、いずれかの方法でご参加頂ければ幸甚です。

ただし、建築会臨時総会はコロナ禍の影響を勘案し、基本的には本誌に同封の返信葉書による書面審議とさせて頂きますが、直接会場参加（人数の上限 50 ～ 100 名を予定）も受け付けております。また、オンラインによる WEB 会議（人数の上限約 300 名を予定）も可能ですので、その場合は返信用はがきに必ず E-mail アドレスと参加の可否をご記入下さい。E-mail により、URL をお伝えします。

また、（仮称）芝浦建築会設立総会につきましては、学科・コースを跨ぐため書面審議は行わず、直接会場参加（上限 50 ～ 100 名を予定）とオンラインによる WEB 会議（上限約 300 名を予定）とさせて頂きます。WEB 会議に参加予定の方は返信用はがきに必ず E-mail アドレスをご記入下さい。E-mail により、URL をお伝えします。

コロナ禍が収束しない見通しの中での臨時総会と設立総会になりますが、感染防止にご協力（**ワクチンを 2 回接種済みの方**とし、さらに人数制限を設ける場合もあります）の上、またご趣意をご理解の上、宜しくご協力の程を重ねてお願い申し上げます。

さらに、現時点（9 月末時点）記念式典は開催する予定ですが、コロナ禍が沈静化しない場合、または不特定多数のキャンパス利用が不可の場合は中止とさせて頂きます。その場合、11 月中旬から 12 月初旬にかけて、建築会の HP. でお知らせします。なお、総会時に実施しておりました祝賀会・懇親会は何とか実施するよう計画しておりましたが、コロナ禍の影響に配慮し、この度は残念ながら中止とさせて頂くことをご容赦下さい。

式次第およびタイムスケジュール

【建築会　臨時総会式次第】

日時：2021 年 12 月 11 日（土）　13:00 ～ 14:00
場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス　交流棟 5 階 501 教室
（会場受付 12:30 ～／オンライン会議受付 12:40 ～）

□開会の辞　総合司会：鈴木 泉
□会長挨拶　建築会会長：枝広英俊
□議長および書記選出　議長：辻村 建／書記：川口英樹
□ 2021 年度の活動報告　枝広英俊
□ 2021 年度の会計報告　染谷 清
□監査報告　佐藤久松／加治喜久夫
□建築会の解散および残余資金の扱いについて　枝広英俊
□（仮称）芝浦建築会の設立および総会の案内　功刀 強
□閉会の辞　辻村 建

【芝浦建築会　設立総会式次第】

日時：2021 年 12 月 11 日（土）　14:30 ～ 15:30
場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス　交流棟 5 階 501 教室
（会場受付 14:00 ～／オンライン会議受付 14:10 ～）

□開会の挨拶（司会：鈴木泉）
□設立準備会代表挨拶
□議長選出
□議事録記録人・議事録署名人選出
□議事
・第 1 号議案　（仮称）芝浦建築会の設立と会則（案）について
・第 2 号議案　（仮称）芝浦建築会役員の選出について
（選出後、新会長挨拶と役員の紹介）
・第 3 号議案　（仮称）芝浦建築会の事業計画（案）について *
・第 4 号議案　（仮称）芝浦建築会の予算計画（案）について *
・その他（銀行口座の代表者選出ほか）
＊第 3 号議案と 4 号議案は一括審議とする
□閉会の挨拶

【記念式典】 注）コロナ禍が沈静化しない、またはキャンパス利用が不可の場合は中止とします。中止の場合は、11 月中旬頃に HP. にてお知らせ致します。

日時：2021 年 12 月 11 日（土）　15:45 ～ 17:15
場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス　交流棟 6 階大講義室

□開会の挨拶
□新会長挨拶
□来賓挨拶
□講演（下記の先生方に、約 20 分間の講演をお願いする予定です）
・基調講演　秋元孝之（建築学部学部長、建築学科教授）：「建築学部の完成年度を迎えて」
・志手一哉（2009 年 MOT 卒、建築学科教授　：「建築生産における BIM の活用について」
・原田真宏（1995 年卒、1997 年院修了、建築学科教授）：「日本建築学会賞『道の駅ましこ』について」
□閉会の挨拶